

財政の窮乏

☆これまで折に触れてみてきたように、17世紀には比較的順調であった幕府財政は、18世紀に入り、急速に悪化の道をたどるようになった。

Q 1. これまでに学んだことの中から、収入面でのマイナス要因を思い出してみると…

A 1. 耕地面積の拡大が停滞、1 鉱山 (金山や銀山) 収入の減少など

★以上の理由に加えてもう一つ、江戸幕府の経済体制の根幹を揺るがす事態が生じていた。

それは「物価問題」である。具体的には → 「2 米価 安 3 諸色 高」

★幕府以上に諸藩の財政窮乏も深刻化していた。

Q 2. 各大名には幕府から多大の出費を要する義務が課せられていた。例えばそれは…

A 2. 江戸と国元を往復する 4 参勤交代 や幕府から土木工事を命ぜられる 5 手伝普請 など。

Q 3. 困った大名が急場をしのぐためにとった手は… [図表P. 192] 1; 史料[109]

A 3. 商人からの借金 (6 大名貸)、家臣に対する俸禄の 7 借り上げ (借知) → 窮乏は武士全般へ広がっていく…

◇ 荻生徂徠は8代将軍に提出した意見書『8 政談』の中で、金がなくてはどうにもならない

この武士の状況を「9 旅宿の境界」 (=自分の家ではなく、旅館に泊まる旅行者のような状況) と表現している [裏面史料]。

享保の改革 ~1716~45年の約30年に及ぶ、8代将軍10 徳川吉宗 による幕政改革。

7代将軍徳川家継が8歳で死去したため、三家の一つ・11 紀伊 の藩主から将軍となった。

〈享保の改革に関与した人材一覧〉

☆12 大岡忠相 …町奉行として江戸の都市政策、法制の整備など改革の実務を担当。

☆ 荻生徂徠…古学派の儒学者で綱吉にも仕えた。吉宗の諮問に答え『政談』を提出。

\* 室鳩巢…木下順庵を師とする朱子学者。吉宗の侍講となる。

☆13 田中丘隅 …意見書『民間省要』が吉宗の目にとまり、62歳で幕府役人に抜擢。

\* 神尾春英…改革後半期の勘定奉行。「胡麻の油と 百姓 は絞れば絞るほど出るものなり」

[史料100]

◇ 「米価安諸色高」の「諸色」とはさまざまな品物の意味です。物価そのものの意味でも使うようです。江戸時代に米を売って暮らしている最大の存在といえば「武士(大名、藩、幕府)」だ、ということはわかっていましたか？私は歴史を習っている間にそれを意識したことがありませんでした。幕府や藩は年貢を主に米で取り立てます。大量の米が各藩や幕領の蔵に集まります。その米を金に換えなければさまざまな用途に用いることができません。できるだけ米を高く売りたいのです。一方、幕府や藩は収入を増やすために新田を開発し米を増産させます。世の中に米だけは大量に供給されます。で、気がつきませんでしたか？大量に供給された物は値が下がってしまうのです。江戸幕府の経済の根本的な矛盾がここにあります。この矛盾を解消するために打たれた政策が明治政府の地租改正ということになります。

◇ 大名に多大な出費を強いた政策としては「参勤交代」が思い浮かぶ人は多いかもしれません。参勤交代と大名の江戸屋敷の維持費で藩の年間支出の6割から8割を占めたとする研究者もいます。そうした苦しい藩財政に決定的な打撃を与える政策に「手伝普請」があります。手伝普請は中学校まであまり取り上げられていないはずなのでここで見ておきましょう。図表 P. 166 3A の説明によると、「平時に江戸城・駿府城の築城・修築や河川工事・埋め立て工事などの普請役を負担(すること)」と書いてあります。これがいかに過酷か、実際に起きた有名な例を挙げます。1700年代半ばに薩摩藩(鹿児島藩)に対し、幕領である美濃国(現在の岐阜県)を流れる長良川、木曾川、揖斐川の合流点での治水工事が手伝普請として命ぜられます。指揮は幕府役人、工事費用は薩摩の負担、現場監督、工事人は薩摩藩士、加えて付近住民に賃金を払って雇うという形態でした。薩摩藩は当時すでに財政破綻状態で借金約70万両(藩の年間収入は10数万両程度)を抱えていた状態のため、工事費用は商人からのさらなる借金(結局7万両)でまかなわれました。巨大河川の合流点でただでさえ難工事な上、幕府の指揮官がひんぱんに計画変更を求めてすでに終わった部分を破壊させるなどの嫌がらせ(?)ともとられる出来事もあり、工事開始50日後には早くも幕府に対する抗議の自害(切腹)が発生、結局工事終了まで自害者は50名を超えました。さらに過酷な労働下で赤痢が流行したため30名以上が病死します。約1年後工事は終わりますが、責任者であった家老は工事完了報告書を仕上げたのち自害しました。これを「宝曆治水事件」とよんでいます。